

氏 名：工藤奈織美

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 122 号

学位授与年月日：2014 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員： 麻原きよみ（聖路加看護大学教授、主査）
伊藤 和弘（聖路加看護大学教授）
堀内 成子（聖路加看護大学教授）
上野 昌江（大阪府立大学）

博士論文審査結果

審査日：2014 年 1 月 20 日

研究科委員会提出日：2014 年 2 月 18 日

看護学研究科博士後期課程	氏名 工藤奈織美
専攻分野	地域看護学
論文題名	新生児家庭訪問における保健師の気になる家族を見出す方法の構造化
審査委員	

審査の合否および評価 (・否)

本研究は、保健師の新生児家庭訪問における気になる家族を見出す方法を記述し、保健師の家族に対する支援方法を構造化することであり、22名の保健師にインタビューを実施し分析した。その結果として、保健師が新生児訪問で気になる家族を見出す方法として、「保健師の基準を家族の“普通”と照合して違和感を了解しようとする」を中核カテゴリーとするプロセスを抽出した。審査では、以下について議論され、修正または追加記載が求められた。

1. 目的および主要概念の定義について、本研究は保健師の気になる「家族」を見出す方法の構造化を目的としているが、実際には母親に焦点を当てて記述している。目的と定義に明記したほうがよい。また、新生児家庭訪問としているが、実践における実際的な状況を考慮して定義に乳児早期を含めたほうがよい。
2. 方法論について、本研究結果はシンボリック相互作用論を理論前提とした内容ではないことから、シンボリック相互作用論を理論前提とはせず、グラウンデッドセオリー・アプローチを用いて分析するとして方法論を修正すること。この際、本研究がグラウンデッドセオリー・アプローチを用いることの適切性について、わかりやすく記述する必要がある。

3. 結果については、「家族をみる保健師の基準を研ぎ澄ます」カテゴリーのうち、「保健師の基準を設定する」サブカテゴリーは抽象度が高いため、再考すること。また、実際には保健師は、気になる家族を児の状態や母親の育児能力、家事能力などから気づいていると考えられることから、保健師が気になる家族をみるときの、特徴的かつ具体的内容をサブカテゴリーやコードに表現したほうがよい。インタビューデータの引用が長すぎるので省略等を入れて短くし、研究者の解釈を多く記述すること。

4. 考察について、本研究の主要概念である保健師の「気になる家族」について、結果では「保健師の基準を家族の普通と照合して違和感が了解できない家族」としているが、それが何かイメージできず具体的理解に至らない。保健医療の分野で共通認識されている用語（身体的・精神的・社会的健康問題や養育関係に問題があるなど）を用いて記載すること。また、本研究で示された「気になる家族を見出す方法」が介入にもなっていることを重要な論点として考察すること。本研究結果の新規性を既存研究との比較から論じると共に、予備研究の結果が本研究にどう生かされているかも記述すること。さらに、本研究結果を新人保健師や他職種にどう伝えるか、具体的な家庭訪問技術に関する看護実践への示唆を記載すること。

5. 結論については、結果と整合し、わかりやすい記載とすること。

以上の指摘に関しては、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認が得られた。審査では、今まで明らかにされてこなかった具体的な保健師の家庭訪問技術が記述されたと評価された。新生児家庭訪問は保健師の特徴的な技術であり、その支援方法の構造の解明は、今後の効果的な実践に寄与することが期待できる。また、近年、大きな社会問題となっている虐待予防のための方法論として貢献することが期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。